

クラス	TU305	担当教員	亀谷 和史
テーマ	乳幼児の発達を学び、保育実践と「保育の専門性」を深める		
著書・論文 研究課題等	『「知的な育ち」を形成する保育実践Ⅱ』（勅使千鶴・東内瑠里子共編著）（新読書社）2016年、『同Ⅰ』（勅使千鶴・東内瑠里子共編著）（新読書社）2013年、「アンリ・ワロンの人格発達理論における『機能連関』と『指向性機能』に関する一考察」（『日本福祉大学子ども発達学論集』第8号・2016年）、『現代保育と子育て支援—保育学入門（第2版）』亀谷和史編著（八千代出版）2008年、など。		
ゼミナール概要			
キーワード：乳幼児期、発達、保育実践、保育の専門性、子どもの成長・発達の権利と「学ぶ」権利			
<p>[目的、内容、等]：</p> <p>◎このゼミでは、「乳幼児の発達過程」とそれを踏まえた「保育実践」や「保育（者）の専門性」に関して学びます。それは「子どもの権利」を成長・発達する権利、学ぶ権利を中核に保障することでもあります。</p> <p>（1）まず第1に、テーマに掲げたように、このゼミでは、特に、乳幼児期の認知・感情・人格等の発達の学習をします。特に、「自我」の発達や自尊感情・愛着形成（あるいは愛着障害）などを学びます。</p> <p>①誕生からおよそ、1、2歳代の発達のプロセスを、感情、認識、自我などに、焦点をあてて、学習していきます。要するに、乳児保育の内容・方法を発達の・専門的に深めていきます。</p> <p>②次に、幼児期は、3歳児・4歳児・5歳児と年齢別に、自我や認識の発達過程、その特徴を理解し、発達の視点から保育実践の内容・課題についても学習します。ビデオ学習なども行います。</p> <p>③以上のことを、エリクソン、ボウルビー、アンリ・ワロン、などが提唱した、「基本的信頼感」や「愛着」の重要性、乳幼児期の「情動交流」や「共感」関係の重要性を学習します。乳幼児期の発達をふまえたうえで、「保育（者）の専門性」を深めていきます。</p> <p>（2）第2に、2015年度から「子ども・子育て支援新制度」が始まり、保育所、幼稚園、認定こども園、小規模保育施設など、保育・幼児教育の制度が「多様化」し、「保育の質」の格差が生じかねない仕組みが始まっています。そこで、今、課題となっている保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題などに関しても学習していきます。待機児童をはじめ、さまざまな「保育問題」も取り上げて、皆さんと考えていきたいです。乳幼児期に発達過程にふさわしい豊かな体験や活動の保障を追究していきたいです。</p> <p>[方法等、ゼミの進め方、等]</p> <p>○3年次のゼミの前半では、あらかじめスケジュールを決めて、毎回、グループあるいは個人で、指定文献（テキスト）を精読し、さらに独自に学んだり調べたりした内容を加えて、要旨をまとめ、プレゼンテーション（発表）します。担当教員が、ミニ・レクチャーを行う場合もあります。</p> <p>○後半では、グループあるいは自分自身のテーマや課題を決めて、スケジュールをあらかじめ決めて、順に発表します。そして卒業研究の準備に向けて取り組みます。</p> <p>○認定こども園や夜間保育園、子育て支援センターなどにテーマを定めて見学や体験実習も予定しています。</p> <p>○夏休み後半にゼミ合宿を予定しています。（今から合宿代2万~3万円を貯めておいてください。） （*ちなみに2017年度は、横浜市にある園庭が有名な川和保育園に見学訪問に行きました。2016年度は、京都のさくら・さくらんぼの系列のみつばち保育園に行きました。）</p> <p>○3年次の後期から、本格的には4年次になって、卒業研究に取り組みます。個人で専門的なテーマを決めて、「子ども発達学専門演習Ⅱ論文」（＝卒業論文）として執筆します。（*毎年、3年生と4年生合同の卒業研究発表会を予定しています。4年次の10月ごろに中間発表会を行う年もあります。）</p> <p>○4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように頑張ります。後輩のゼミ生に発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。</p> <p>*乳幼児の発達に関心のある人、学ぶ意欲とやる気のある人は、歓迎です。しっかりと、志望動機（エントリーシート）を書いてください。</p> <p>*みんなで、有意義で楽しいゼミをつくっていきましょう（^!^）！</p>			
使用テキスト			
皆さんと相談して決めますが、とりあえず、堀尾輝久著『子育て・教育の基本を考える』（童心社）2007年			
担当教員からのメッセージ ↑上にいっしょに書きました↑			